

## 平成18年野球殿堂入り表彰式～新しい形～

事務局長 小林二三男

平成18年の野球殿堂は、競技者表彰からは歴代3位の通算567本塁打を放った元南海ホークス門田 博光氏、「バックス」の名手といわれた名二塁手の元中日ドラゴンズ高木 守道氏、独特のサブマリン投法で阪急黄金期を支えた元阪急ブレーブスのエース山田 久志氏、特別表彰からは前コミッショナーの川島 廣守氏、昭和31～33年の日本シリーズ3連覇を達成した西鉄黄金期の名ショート元西鉄ライオンズの豊田 泰光氏の5名が選出されました。表彰式は7月21日(金)明治神宮野球場で行われたオールスター第1戦で多くのファンや出場選手の見守るなか執り行われました。

朝から雨が降り開催が危ぶまれましたが、午後には小降りになり、試合前には雨も上がりさわやかで絶好のコンディションになりました。

試合前、マウンド手前に顕彰者5名がそれぞれのレリーフ脇に整列。スーパーカラービジョンで現役時代の勇姿がビデオで紹介され、(財)野球体育博物館 根来 泰周理事長より1人1人に記念のレプリカが贈られました。その後、顕彰者1人ずつからそれぞれ喜びの言葉を聞くことができました。

「久しぶりに大観衆の前に立てて、野球というスポーツは最高のものだと思います。」(門田氏)

「お世話になった方々のお陰です。感謝しています。」(高木氏)

「仲間とファンの皆様からもらったものだと思ってる。野球人として幸せな男です。」(山田氏)

「最高の栄誉を頂き有り難うございます。」(川島氏)

「野球熱を冷ましてはいけない。欽ちゃん球団には頑張ってもらいたい。」と豊田氏は評論家らしい一言でした。

5回終了後は、殿堂入りOBによる花束贈呈を行いました。試合前に行ったレプリカ贈呈の様子がスーパーカラービジョンで紹介されるなか、金田 正一氏(1988年殿堂入り)、杉下 茂氏(85年)、上田 利治氏(03年)、博物館常務理事の豊蔵 一セ・リーグ会長、同小池 唯夫パ・リーグ会長からお祝いのお花束が贈られました。受け取った顕彰者の表情も非常に和やかで、球場全体が暖かみのある雰囲気になっていました。

試合前に行った厳粛なレプリカ贈呈の儀式と5回終了後に行った温かい雰囲気の花束贈呈とのコントラストが、新しい形として興味深い表彰式でありました。



プレゼンターと記念撮影



## 夏休み情報!

## ～ 展示編 ～

**1** 特別展 「WBC写真展」  
会期 ～9月24日(日)  
会場 企画展示室ほか

3月に行われ、王監督率いる日本代表が優勝した「第1回ワールド・ベースボール・クラシック」のアジアラウンドから決勝戦までの全8試合と表彰式の写真約70点を展示し、その歴史的な快挙を振り返ります。

このほかにも、決勝戦のウイニングボールやMVPを獲得した松坂 大輔投手使用のスパイクなど、関連の資料も展示します。

**2** 特別展 「平成18年度 野球殿堂入り特別展」  
会期 ～9月24日(日)  
会場 野球殿堂ホール

殿堂入りの門田 博光氏、高木 守道氏、山田 久志氏、川島 廣守氏、豊田 泰光氏の特別展を開催します。5氏ゆかりの資料や写真をはじめ、経歴や記録などを紹介します。なお、レリーフは、7月21日のオールスターゲーム第1戦(明治神宮野球場)で行われる表彰式でお披露目され、翌22日より野球殿堂にて永久に掲額されます。

## ～ イベント編 ～

**1** 「野球で自由研究～  
野球の国語・算数・理科・社会～」  
会期 ～9月3日(日)

野球には用語や歴史、率の計算など、国語・算数・理科・社会で自由研究のテーマになるものがたくさんあります。館内の展示や図書室の本、実物の資料を使って、楽しく自由研究ができるようスタッフがお手伝いします。



昨年ようす

**2** バット製作実演  
期日 8月11日(金)、12日(土)  
時間 11:00～12:00、13:30～14:30、  
15:00～16:00 予定  
協力 ミズノ株式会社

ミズノ株式会社のご協力により同社のクラフトマンによるバット削りの実演を開催します。また、バットにまつわるいろいろな質問にもお答えします。

自由研究にも活用できるイベントです!



昨年ようす

**3** 夏休み親子グラブ製作教室 8月13日(日) 13:00～約2時間の予定  
今年も、ミズノのスタッフ指導のもと、親子で軟式少年用グラブの製作(おもにひも通し)するイベントを行います。参加者の募集は終了しましたが、見学はできます。

※通常の入館料(大人400円、小・中学生200円)でご覧いただけます。 ※開館時間 10:00～18:00(入館は17:30まで)

※夏休み中は無休で開館です。8～9月の休館日は、9/11、9/25です。



## 殿堂入りの人々を語る(12)

### 父の思い出

市岡 宏 (市岡 忠男氏 次男)



1962年殿堂入り  
市岡 忠男氏レリーフ

私の父が殿堂入りの榮譽に浴したのが、1962年（昭和37）であり、その時に本当に日本の野球界のお役に立ったのだという実感が湧いてきました。その時の年齢が70歳であったと記憶しています。父は、野球チームという集団に対しては、中々厳しい教育をしていたと若い選手諸君から聞いたことがありましたが、もともと外部や家庭では物静かな性格ゆえ、その時には、プロ野球創設時代から将来形についてまで、いろいろの考えを頭の中で再構築し、静かな笑顔の時間であったろうと思いますが、その後残念ながら2年後の72歳というあまりにも早い死去でありました。

そして、その時に喜んで下さった人達の中に父が野球に没頭して行った中学時代、京都商業でお世話になった京都や滋賀のご関係者がいらっしゃいました。講演会を催していただいた席上で、父は本当に心から謝辞を述べているテープを、私も聞いたことがあります。

振り返って、父が京都商業から早大に入学し、選手・主将に続いて監督をやらせて頂いたのが、日本の野球と米国の野球との大きな力量の差を直接感じ取った最初であったと思われまふ。その頃我が国では、健全な娯楽としては、六大学野球が巷では最右翼でありながら、時に米国遠征した時の成績や米国チームを招待した時の成績など、どれをとっても、強いとは言えない実力であり結果でしかなかったからです。

私共が、よく野球の話をしてもらった時には、必ずと言っていいほど「アメリカの球団ばかりが強くては駄目だ。日本の球団が互角に試合が出来て、その先はワールドシリーズと言う最高のチーム決定戦を日米で行えるようになることが最も望ましく、そのためには、日本にも最強のプロ野球リーグをつくるどころから始めなければならない。」と何回も言っていたものでした。

その間、第二次大戦という不幸な障害があり、野球環境にはすこぶる悪い状態になりましたが、それでも結構早く、東京・大阪など主要都市で野球場が使えるようになり、一方球団づくりの方も、最優秀の選手の方々に集まっただけようお願いしたし、三原・水原・中島氏ほか人格技量のすぐれた多くの選手がプロ球界に参加及び復帰されるにおよび、東西対抗から始まった戦後のプロ野球に当時学生だった我々も多大の声援を送ったものでした。

時は移り、現在は更に固まった地盤の上に、充実した野球界と選手・楽しいグラウンドに観客とがあって本当に楽しい野球を見ることが出来るし、TV放映なども大きな位置付けとなって定着しております。

今後は、ますますお客様の方に視点を置いたプロ野球となり、プロ野球が白熱し、興奮を覚えるような体制であり運用であって欲しいという全国野球ファンの息吹と要望が寄せられています。

今や、プロ野球関係者の皆様のご尽力によって、日米選手間の交流や世界的発展のためのWBCの開催・その他多くの流動的な動きが見られることは、大変嬉しいことでもあります。父の存命中であれば、どれだけこの隆盛を喜んでくれたかに思いを致し、墓前に報告していることをお知らせ致します。

そしてあらためて、現在、日米相互のチームに移籍し、両リーグでご活躍している選手諸兄のなおい層のご努力を切に期待したいと思いますが、特に怪我や病気で長期に入院加療されたりすることのないよう、ご注意いただき、目的を達成されますことをお祈り致します。



## 知ってほしいこんな資料(56)

### WBC優勝トロフィー

2006年3月22日、WBC日本代表チームと一緒に成田空港に降り立った優勝トロフィーは、王監督はじめソフトバンク選手とともに福岡へ移動、25日からのパ・リーグ開幕3連戦が行われた福岡Yahoo! JAPANドームでお披露目されました。その後約2ヶ月をかけて残りの11球団のフランチャイズ球場と、製作したティファニー社の東京、大阪店で展示されたあと、5月18日閉館後に野球博物館に到着、翌19日からエントランスホールのWBC特別展示コーナーで展示しました。6月6日に全日本大学野球選手権(神宮球場)で展示されたあと、引き続き博物館で展示しましたが、6月20日より9月にかけて再び全国巡回展示の旅にでています。

このトロフィーについては、「2006 WORLD CLASSIC MEDIA GUIDE」\*で次のように紹介されています。

「純銀製で、高さ63.5cm、重さ13.6kg。ティファニー社の熟練職人が200時間以上をかけて製作した。デザインは、地球を模したベースボールに緯度と経度、ボールの縫い目がデザインされたWBCのロゴマークをモチーフとし、4層の台座は4ラウンドからなる大会形式(ラウンド1、ラウンド2、準決勝、決勝)を、台座から広がる4枚の羽は、4元素(風火土水)と、16チームが参加したラウンド1の4つの組を表している。」

優勝トロフィーには、日本シリーズの「内閣総理大臣杯」やKOMAMI CUPのように持ちまわり式の場合もありますが、このトロフィーは同メディアガイドで「The Championship Trophy for the inaugural World Baseball Classic (第1回ワールド・ベースボール・クラシックの優勝トロフィー)」と紹介されており、日本代表チームに贈呈された形になっています。

\*このメディアガイドは図書室で閲覧できます。



WBC優勝トロフィー



トロフィーの箱についていた荷札

現在、優勝トロフィーは全国巡回中ですが、野球博物館では特別展「WBC写真展」を開催中です。キャンプからアジアラウンドを経てアメリカでの2次リーグ、準決勝、決勝戦にいたる8試合と、表彰式の模様を約70点の写真から振り返ります。また、エントランスホールでは決勝戦ウイニングボール、優勝メダル、松坂大輔投手スパイク、渡辺俊介投手スパイクなどを展示中で、優勝トロフィーは、9月以降、日程は未定ですがに再び当館で展示される予定です。

学芸員 関口 貴広



## コラム／博覧・博楽 (19)



## 「審判時代の思い出とお願い」

谷村 友一（野球体育博物館維持会員・元セ・リーグ審判員）

今春の第1回WBCは王 貞治監督（昭和34年プロ入りの同期生。他に村山 実さんがいた）率いる日本が優勝したが、判定問題から審判の編成について注目を浴びた。ペナント・レースもセ・パ両リーグ共に審判の判定についてトラブルが起こっているし、現役審判の急死、試合中に倒れるアクシデントもあったなど審判受難の前半だった。

私は昭和61年に現役を退くまで、数多くの試合を体験し修羅場をくぐりぬけてきた。最も悔いの残る試合は、昭和53年の日本シリーズ（ヤクルト対阪急・後楽園球場）第7回戦で大杉 勝男選手（ヤ）のレフトポール際のホームランについて上田 利治監督（急）の執拗な抗議で中断が1時間19分に及び、しかも解決にあたって金子コミッショナーの助力をいただいていた残念な大事件である。逆に最も幸運を感じたのは昭和48年10月セ・リーグ阪神対巨人（甲子園球場）での球審である。この試合は両チームの最終戦で、勝者がリーグ優勝を勝ち取る稀なケースであり、しかも勝者巨人は9連覇を成し遂げたのである。敗北に怒った阪神ファンは暴徒化して、グラウンドに乱入し巨人ベンチになだれこんだ時に、私は走ってくるファンに暴行されるのではないかと一瞬身構えたが全く無視して通過した。ホッとした反面、審判の存在を理解した思い出がある。審判割当は2週間以上前に作成されるし、前日阪神が中日に勝っていたら全く価値（？）のない試合だったのに大役がめぐってきた偶然に感謝したものである。

昭和39年広島対阪神（広島市民球場）のトラブルで、ファンにより設備が破壊されてノーゲーム、そして後の2試合が中止になったり、心無い人による爆弾騒ぎ、ヌードでグラウンドに乱入してきたこと、蛇が鉄塔に巻きついて停電中断した事件も思い出である。

今年は川島 廣守さんが野球殿堂入りされたが「吾以外皆師なり」と教えをいただいた。殿堂入りの先人鈴木 龍二さんは肩をポンと叩いて「頼んだよ」と励まして下さり、島 秀之助さんは謙虚と誠実を、筒井 修さんは困った時には常識を働かせなさいと現場でのテクニックを、二出川 延明さんからは強い信念、そして背筋をピンと伸ばした立ち姿、歩き方を学んだし、横澤 三郎さんの軽快な身のこなしを研究した。アマの佐伯 達夫さんは高校野球審判時に松山道後でアマ審判の難しさ語って下さり、プロ審判転向時にはあたたかく送っていただいた無類の野球好きであった。先日亡くなられた山本 英一郎さんも、高校野球審判時に甲子園球場で一緒に球児のプレイをジャッジしたし、その後お会いするたび、いつもアマ・プロ審判育成について夢を語られていた。私がアマ・プロを通じて長い間審判を続けることが出来たのは時に鋭く、厳しくお叱りを受けたり、あたたかい励ましをいただいた多くの方達のおかげであり、常に敬意と感謝の気持ちを忘れないでいる。病気や事故等で1試合も休むことがなかったのは家族の支えがあったからである。

審判がいなかったら試合は出来ない。彼等は強い体力、精神力を礎にして野球規則、決まりごとを熟知し、研鑽を怠らないで「プレイを見たまま素直に判定する」難しさを克服して、正しく魅力ある試合を提供して野球ファンに楽しんでいただけるように円滑な試合運行に努めている。

試合は審判だけではなくプレイする選手、監督、コーチ、更に球団、リーグそしてコミッショナーの協力が大切だし、マスコミの理解もファンの声援も欠かせない。現役審判諸君が長時間試合に耐え、メディア、ファンからの重圧の中で懸命にジャッジしている姿をあたたかく見守り、力強い後押しをお願いしたい。



## こんにちは図書室です



## 東京、懐かしの野球場

今回はプロ野球一軍公式戦で使用されていた、今はない東京の5球場について以下の表にしました。旧住所と現在の地図を照らし合わせ、かつての球場が現在、どの様になっているのかを探しに、訪ねてみませんか。

司書 山根 礼子

球場名	上井草球場	洲崎球場	グリーンパーク	駒沢球場	東京スタジアム
旧住所	杉並区上井草町	城東区南砂町4丁目	武蔵野市西窪	世田谷区深沢	荒川区南千住7-1
現在	上井草スポーツセンター周辺	警視庁江東運転免許試験場の向かい周辺	武蔵野緑町パークタウン周辺	駒沢オリンピック公園総合運動場	荒川総合スポーツセンター周辺
公式戦使用期間	1936年～1938年、1950年	1936年～1938年	1951年	1953年～1961年	1962年～1972年
収容人員(人)	29,500	23,000	51,000	25,000	30,000
グラウンド面積(m <sup>2</sup> )	13,531	不明	14,579	14,381	12,180
広さ	左(m)	101	不明	91	91
	中(m)	119	不明	122	122
	右(m)	101	不明	91	91
芝	内野なし、外野あり	不明	内野・外野なし	内野・外野なし	内野・外野あり
備考	東京セネタースの本拠地。プロ野球で使用されなくなっても、六大学野球や軟式野球で使用された。	大東京軍の本拠地。'36年シーズン終了後には巨人とタイガースの間で初の日本一決定戦が開催され、沢村投手が活躍した巨人が優勝した。海拔1メートルに造られたため、満潮になると海水が入ってきて試合が中断することもあった。	正式名称は東京スタジアム。中央線三鷹駅から西武鉄道東伏見駅方向に引込み線があり、「武蔵野競技場前」駅があった。戦前には中島飛行機製作所があった辺り。	東急フライヤーズの本拠地。「駒沢の暴れん坊」の異名をとった張本勲、土橋正幸など活躍した選手がいた。球場は、東京オリンピック開催のために東京都に返還された。	大毎オリオンズの本拠地。サンフランシスコ・ジャイアンツのキャンドルスティックパークをモデルにした近代的な球場で6基の照明やバリアフリーのスロープ、ゴンドラ席などがあった。
プロ野球初試合	1936. 8. 29, 30 東京球場落成記念 東西対抗職業野球戦  東京の2球団と関西の2球団との東西対抗戦で、初日は1万人、2日目は2万人の観衆があり、試合結果は2勝2敗で互角だった。	1936. 11. 29 東京第二リーグ戦 開催  初日は入場を断るほどの観客を集めた。9日間21試合の大会結果は、タイガースと阪急が5勝1敗で、同率の首位になった。	1951. 5. 5 国鉄対名古屋 巨人対名古屋  こどもの日で小中学生が招待されるなど、内外野スタンドが埋めつくされた。試合結果は第1試合、国鉄は名古屋に6-3で金田が完投勝ちした。第2試合は1-0で名古屋が巨人に勝った。	1953. 9. 27 東急対南海  満員の観客を集めたダブルヘッダー。南海の飯田が第1試合球場第1号ホームランを放ち、10-2で南海が勝利し、第2試合は2-1で東急が勝った。	1962. 6. 2 大毎対南海戦  開場式にはパ・リーグ全6球団が終結し、観客も3万5千人と満員だった。試合は5回裏に球場第一号となる逆転の3ランを南海の野村が放ったが、その後、大毎の葛城が同点2ランを打ち、結果9-5で大毎が勝った。

※「収容人員」、「グラウンド面積」、「広さ」はおおよその数字です。

参考資料 『野球場建設の研究』(沢柳政義著 1952年発行) など



## 【2006年度の維持会員を募集しています】

財団法人野球体育博物館は、昭和34年に野球専門の博物館として開館して以来、野球や体育に関する資料を収集・保管・公開してきました。バット等の実物・写真資料は約3万点、図書・雑誌は約5万点を収蔵しており、展示や閲覧という形で多くの方々に利用していただいております。

また、年1回競技者表彰委員会と特別表彰委員会にて野球界の功労者を選出し、「野球殿堂入り」として表彰しています。

維持会員とは、このような博物館の事業にご賛同いただいた方々に、維持会費をお願いし、博物館の運営をご支援いただくものです。

### 1. 会員の特典

- (1) 当博物館発行「ニュースレター」(季刊)送付します。
- (2) 何度でも無料で博物館に入館できる優待証を発行します。
- (3) 会員以外の方でも利用できる博物館招待券を差し上げます。
- (4) イベント情報などを優先的にご案内します。
- (5) 博物館で販売している商品が10%引きになります。

\*新個人会員には上記の特典のほか「The Baseball Hall of Fame & Museum 2002 ～人で振り返る野球ハンドブック～」(2003年から2006年までの小冊子つき)を進呈します。

\*新ジュニア会員には左記の特典のほか「野球体育博物館オリジナルピンバッチ」を差し上げます。

### 2. 会員の種類と会費

年会費(4月～翌年3月迄)

法人会員	1口	10万円
個人会員	1口	1万円
ジュニア会員(小・中学生)		2,000円

ご入会月により、初年度年会費の割引があります。

### 3. ご入会の方法

①館内にあります「維持会員募集のご案内」の“入会申込書”に、必要事項をご記入のうえ、係りにお渡しいただくかお送りください。

「維持会員募集のご案内」は郵送もいたしますので、博物館までご連絡ください。

②“入会申込書”が届きしだい“維持会費のご請求書”をお送りしますので、維持会費をお振込みください。

お問い合わせ 博物館 業務部 高城・竹内  
皆様のご協力、よろしくお願い申し上げます。



## 博物館からのお知らせ

### 【理事会・評議員会】

平成18年度の理事会・評議員会を6月12日(月)午前11時より、ドームホテルにおいて開催、理事および監事、評議員の計50名(意見書出席含)の出席があり、次の議題についてご承認いただきました。

- 議題1 平成17年度の事業報告・決算報告・監査報告並びに繰越金処理の承認
- 議題2 平成18年度事業計画案・収支予算案承認の件



### 「平成18年度事業計画概要」

1. 平成18年度野球殿堂表彰式の開催
2. 野球体育博物館表彰規定の見直し
3. 個人会員の拡大と小・中学生対象のジュニア会員の新規募集
4. 魅力的な展示と積極的な情報発信により入館者増をめざす

### 【役員交代】

- 新任 評議員 八田 英二氏(日本学生野球協会副会長)  
内藤 雅之氏(日本学生野球協会事務局長)
- 退任 評議員 奈良 康明氏、長船 駿郎氏

### 【訃報】

5月26日 山本 英一郎氏('97年殿堂入)  
7月18日 牧野 直隆氏('96年殿堂入)  
ご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

### ●博物館のご案内

場 所 東京ドーム21ゲート右

開館時間 3月1日～9月30日 AM10時～PM6時  
10月1日～2月末日 AM10時～PM5時  
(入館は閉館の30分前まで)

入館料 大 人 400円(300円)  
小・中学生 200円(150円)  
( )は20名以上の団体

休館日 月曜日(祝日、プロ野球開催日、春・夏休み中の月曜日は開館)  
年末年始(12月29日～1月1日)

#### 【8月・9月・10月の休館日】

9月 11日・25日  
10月 2日・16日・23日・30日

\*9月10日まで無休です。

\*10月1日より開館時間がAM10時～PM5時(入館は4時30分まで)となります。

●編集後記 今年も自由研究のテーマになりそうなヒントをたくさん集めて、小・中学生の皆さんをお持ちしています。ぜひご利用下さい。殿堂入り表彰式を速報でお伝えするため発行が遅くなりました。

### Newsletter Vol.16 / No.2

2006年7月25日発行

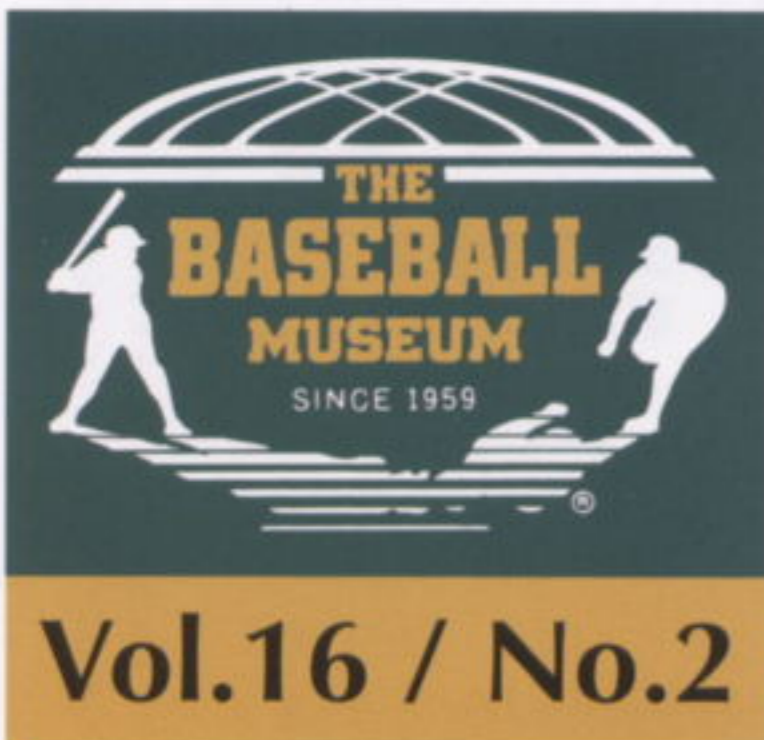
編集・発行 財団法人 野球体育博物館

〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61

Tel 03(3811)3600 Fax 03(3811)5369

<http://www.baseball-museum.or.jp/>

定価 100円



## リレー随筆(25)

競技者表彰委員会幹事 竹林 宏 (NHK大阪放送局)

真夏の球宴、オールスターゲーム。大リーグでは「ミッド・サマー・クラシック」とも呼ばれ、両リーグあわせて64人の選手がただ一試合のために全米から集まります。

前日のホームラン・ダービー、当日のゲームは共に出場選手にとっては大変な名誉。球場のファンも濃厚な2日間を存分に楽しもうと選手の動きに注目します。こうした光景は中継放送で日本でもおなじみになってきましたが、実はあまり知られていないもうひとつの楽しみがあります。「報道陣にとって」と申し上げたらいいのでしょうか…。

それは、選手全員出席の「大記者会見」。行われるのはゲームの前日の昼です。その前の晩まで全米各地で試合をしていた選手達が、オールスター開催地のホテルに集合。ホテル内の大会議場の机を全部取り払って、まず片方のリーグの32人から会見を始めます。壁を背にして、32人が部屋をぐるっと囲むように座り、30分の時間内に報道陣は誰にでも話を聞くことができます。超一流の選手に、球場のぶら下がり取材ではなく対面方式で許される取材。こんなチャンスはありません。ボンズ選手やイチロー選手などスターの周りには多くの報道陣が集まり、競争率が上がります。それならばと、あまり人が集まっていないタイミングを狙って他の選手へ。ジャイアンツのロブ・ネン選手に「上げた足を一度軽く地面につけてから前に踏み出すのはどうしてですか」。ヤンkeesのマリアーノ・リベラ選手に「どうやってカットファストボールを覚えましたか」。こうした事を聞いたのは数年前のこの会見でした。制限時間が終わると選手は退室、次にもう一方のリーグの選手が登場します。米国内はもちろん、世界から集まるメディアのために解放された30分×2は短いようで意外と長く、上手に作戦を立てると多くの選手の貴重なコメントが聞けるのです。

選手達はこのあと合同で練習、ホームラン・ダービー。翌日試合をして、その翌日には後半戦に備えて再び各地に散るわけです。このハードスケジュールの中での記者会見。疲れを見せず対応する選手達には改めて強い敬意を持ちます。

大リーグ側が設定するオープンな会見は、ワールドシリーズでも行われます。試合前には監督と、翌日の先発予定投手が記者会見します。ここではかなりフランクに当日のメンバー編成についてのやり取りがあります。また会見内容は速記者によって処理され、10数分後には英語の印刷物となって配布されます。こうしたビッグイベントでの広報対応の速さと間口の広さには驚かされます。

様々な国の出身者が活躍する大リーグ。それだけ海外の幅広いメディアからも注目されます。「世界が見つめるイベント」であると自ら認めるからこそそのオープンな対応がなされています。そこに、世界の野球をリードする存在としての大リーグの自負が感じられるのです。